

# 研究主題 未来社会を創造的に生きるこどもの育成

～考えを交流し、新たな価値を生み出す活動を通して～

第5学年 おおたの未来づくり 学習指導案

## 単元名「商店街にさらににぎわいを！」

### ～商店街のPRウィークを開催しよう～

【B 地域の創生】(20時間扱い)

令和7年10月15日

授業者：藤江 海

#### 1 単元の目標

児童にとって身近な商店街である洗足池商店街・小池小栄会・長原商店街の代表の方の思いをもとにPRウィークを開催する活動を通して、多角的な視点をもって試行錯誤しながら企画・製作し、それぞれの思いやコンセプトに沿った内容・方法で発信することができ、他者と協働しながら、よりよい未来社会を創造しようという思いをもてるようにする。

#### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地元の商店街の方や広報物を見る人の意識に立ったコンセプト設定の意味を理解し、それに必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。 ②商店街の方や広報物を見る人に受け入れられる企画にするために必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。 ③広報物を分かりやすく発信するために必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。	①地域の方の話をもとに、情報を整理・分析し、広報物のコンセプトを設定することができる。 ②コンセプトに合った広報物を地域性、公共性、持続可能性などを踏まえて考えることができる。 ③調査の結果や、商店街の関係者からのフィードバック等を生かし、試行錯誤を重ね、内容を改善することができる。	①コンセプトを設定するためという目的をもって話をよく聞こうとしている。 ②地域の方のフィードバックを受け止め、企画案の改善や必要な情報収集に協働的に取り組もうとしている。 ③広報物の改善に向けて、自分と他者のよさを生かして分担するなど、協働的に取り組み、取組を振り返って価値や改善点を見出そうとしている。

### 3 本单元について

#### (1) 单元設定の理由

低学年では、第2学年の生活科「もっと知りたいまちたんけん」の学習において、商店街をはじめとする地域の場所や人と繰り返し関わりながら考えてきた。自分たちの生活が地域の様々な人に支えられていること、自分たちの生活する地域にはすてきなところがたくさんあることに気づき、愛着をもつなど考えを広げたり、自分でも行くなど生活に生かしたりすることができた。

中学年では、3年生の社会科「くらしとお店」において、地域のスーパーマーケットを実際に見学した。見学などを通して、地域の人の販売の工夫や努力によって、自分たちの生活が支えられていることに気付いた。総合的な学習の時間では、地域の工業生産を行う企業のよさについて調べて考えたり発信したりする活動を通して、技術力の高さやそれに携わる人々の思いを知り、地域のものづくりの魅力を知り、学校内の人や地域の人に伝えることができた。

しかし、洗足池駅の周辺のまちづくりについて、以下のような指摘がある。

洗足池駅の周辺では良好な住宅地と商店街が形成されていますが、一方で、にぎわいの創出・・・(略)などの課題も見られ、地域特性を踏まえた駅周辺の魅力ある生活環境の創出が必要とされています。「洗足池駅周辺地区まちづくり方針」(大田区まちづくり推進部都市開発課 令和2年3月)より

そこで、高学年の本单元では、上記のような実態に基づいて、地域の商店街や区役所の関係部局等と連携し、商店街の方や広報物を目にする人の意識に立って、店舗の魅力を発信する広報物を企画、制作できるようにする。また、より効果的に発信するために試行錯誤し、商店街の課題や願いを解決する方法を考えるとともに、商店街の課題や願いに対して何ができるかを主体的に考え、未来を創造しようとするようにすることをねらいとしている。

#### (2) 授業パートナーの連携

##### 連携先

「授業パートナー」として洗足池商店街、小池商栄会、長原商店街の3つの商店街と連携する。

##### 依頼内容

5年生が商店街の内外に掲示物を貼るなどして「商店街をPRするウィーク(1週間)」を開催することを目的とし、主に以下の3つのことを依頼した。

- ① 「商店街をPRするウィーク(1週間)」を開催してほしいという内容のビデオメッセージの撮影させてもらいたい。
- ② 店舗でインタビュー、アイデアに対するフィードバックをもらいたい。
- ③ 店舗や商店街に広報物等の設置をさせていただきたい。

##### 期待できる効果

- ① 「授業パートナー」からのビデオメッセージを視聴し、自分たちが取り組むべき課題に気付くことを通して、実社会や地域での取り組みに対する関心や好奇心、地域の未来づくりに参画したいという意欲の高まりを期待できる。
- ②③ インタビューなどで収集した情報を基にして、試行錯誤して考えたアイデアに対し、フィードバックをもらうことを通して、教科等の学習と実社会とのつながりが明確になり、学びが実社会で役立つことの実感の高まりを期待できる。

(4) 単元で扱う教科等の内容及び本単元に充てる授業時数

教科名等	本単元に補完する内容	授業時数
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。</li> <li>・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。</li> </ul>	6
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。</li> </ul>	2
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。</li> </ul>	1
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫すること。</li> </ul>	1
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。</li> </ul>	2
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ、表現する力を身に付けること。</li> </ul>	8

#### 4 創造的な資質・能力に関する児童の実態

昨年度、総合的な学習の時間「よりよい生活のために～福祉～」では、一人一人が発想したつえや車いすのデザインを班ごとに、大型ホワイトボードにまとめる活動を通して、問題の解決に向け、アイデアを話し合っまとめる力の素地を身に付けた。話し合う場面では、高齢者との対話や車いすを使った経験を生かし、製品を使う立場に立って検討する姿が見られた。

整理すると、基礎的な資質・能力として、次の素地を育成してきた。

##### 知識・技能

- ① 物を使う立場と、物をつくる立場に立ち、ものづくりについて多角的に捉える力の素地
- ② 物を使う人やつくる人と共感的な態度で対話し、必要な情報を収集・記録する力の素地
- ③ 創出した考えやデザインを分かりやすく相手に伝える力の素地

##### 思考・判断・表現

- ① 問題の解決に向け、アイデアを話し合っまとめる力の素地

##### 主体的に学習に取り組む態度

- ① 目的や相手に合った対話をし、必要な情報を積極的に収集して探究しようとする素地
- ② よりよい考えを創造しようと、自他のよさを生かし、主体的に話し合おうとする素地
- ③ 学習したことの意義や身に付いた力について振り返り、主体的に取り組もうとする素地

昨年度までに養われてきた素地を生かし、本年度の副主題である「考えを交流し、新たな価値を生み出す」に関して、「情報を整理・分析して必要なキーワードを導き出し、試行錯誤して“コンセ

プト”を設定する力」をさらに伸ばしたい。また、事前アンケートでは、「よりよい生活、よりよい未来のために、他の人と協力して、地域や社会の課題を解決しようとしていますか。」という質問に対して、「している。」と自信をもって答えられている児童は、44%と半分以下であった。

これらのことを踏まえ、本單元においては、商店街の方や広報物を目にする人の意識に立ち、多くの人と共有できる「コンセプト」となるように、友だちや地域の人々の考えに触れる機会を意図的に設定する。地域・社会を自分事として捉え、その幸せや豊かさを自他のよさやもち味を生かして協働して考えていくことができる児童の育成を目指す。

## 5 目指す児童像

わかった! できた! (知識・技能)

- ① 地域の活性化に向け、地域の様々な人の立場に立ち、分かりやすくPRすることができる児童
- ② 自分たちの取り組みによって、地域社会がよりよくなると気付いている児童

ひらめき→かたち→リニューアル (思考・判断・表現)

- ① 地域の人々の考えを生かし、地域の人に喜ばれる企画を話し合って立て、実現する児童

わくわく! チャレンジ! (主体的に学習に取り組む態度)

- ① 地域の様々な人とすすんで関わり、自他のよさを生かし、主体的に新しいものを生み出そうとする児童
- ② 自分だけでなく地域の人々の幸せを含めて考えようとする児童

## 6 研究主題に迫るための手だて (単元を通して) 重点項目 (協議の視点)

### (1) 複数の立場を意識し、地域の人に喜ばれる企画について探究・創造する場面の設定

(分かった・できた①)

地域の活性化に向け、分かりやすくPRする知識・技能が高まるように、児童が商店街で働く立場の人と地域で暮らす立場の人に関わり、多角的に考える機会を設ける。地域の人に喜ばれる企画を立案するには、商店街で働く人から考えを聞くことと、生活する人々から商店街へ足を運びたい企画になっているかについて率直な感想を聞くことが欠かせない。

児童は、商店街の各店舗の魅力についてポスターをつくって発信したい「ポスターグループ」と、商店街全体についてイベントを企画して盛り上げたい「イベントグループ」に分かれる。ポスターグループは各店舗の店長、イベントグループは商店街全体の運営者に関わり、それぞれ、取材、提案、再提案をして実現していく。

よりよい企画をグループごとに探究することで、商店街全体と各店舗、そして地域に暮らす人々の立場にも喜ばれ、商店街の活性化につながるようにする。

●探究グループの違いと共通点

	ポスターグループ(お店)	イベントグループ(商店街)
提案する相手	各商店の店長	商店街の運営代表
取材する内容	各商店の商品の魅力や工夫	商店街の課題や願い
企画	各商店をPRするポスター	全体をPRする掲示・イベント
PR物の設置	各商店の店内か入口	協力店舗・商店街の通り
開催	同時期に1週間程度、商店街応援ウィークを開催	
生活者の視点	随時、自分の保護者や兄弟などから企画案のフィードバックをもらう	
連携	適宜、グループを超えて情報交換をし、連携して企画の魅力を高める。	

●表：児童が関わる立場と捉えさせたい内容

相手	属性	関わり方 (タイミング)	捉えさせたい6つの内容	
商店街で働く人	商店街の代表者	・ビデオメッセージ(導入) ・提案・取材・再提案 ・企画物の設置・回収	① 商店街全体の課題や願い  ② 各商店の魅力や工夫	⑤ 自分たちの企画や製作物の評価 (分かりやすさや内容の魅力)
	各協力商店の店長	(デザイン・クリエイションで計5回程度)		
地域で生活する人	保護者 兄弟自分 友達 他学年	・主に自分の家でインタビュー(適時)	③ 商店街や各商店に感じる課題や魅力 ④ 商店街への期待 (こうなったら嬉しい)	
専門職	デザイナー	・オンライン対話	⑤プロの仕事の進め方(ポスター) ⑥自分たちがした視点の整理の評価	
区の人(行政)	まちづくり推進部都市開発課	・ビデオメッセージ(終わり)	⑦ 活動全体について、行政の立場からの評価 ※後述 手だて(3)	

(2) 地域のリーダーの想いを聞く機会の設定 (わくわく！チャレンジ！ 分かった・できた②)

本単元は、「商店街をPRする1週間を開催してほしい」というビデオメッセージが商店街の代表の方々から届くところから始まる。児童は、地域で暮らす人が商店街に足を運びたいくなる企画について話し合う。

3つの商店街の代表の方々には、地域への想いを語っていただく。3人の方の地域への想いについて話し合う場面を設定することで、自分の店舗の利益だけでなく地域全体(商店街全体)の幸せを含めて考えていることに気付きやすくする。地域で働く人の利他性に気付くことで、自分だけでなく地域の人々の幸せを含めて考えようとする態度を育む(ウェルビーイングの視点)。

(3) 単元の終了時に複数の立場の方から、児童の企画について価値付ける機会の設定

## (わくわく！チャレンジ！ 分かった・できた②)

単元の終了時に商店街の方々だけでなく、行政の立場から、児童の企画について価値付けていただくことで、単元後も児童が地域の様々な人とすすんで関わり、自他のよさを生かし、新しいものを生み出そうとする主体性が高まるようにする。

さらに、児童の視野が広がるように、まちづくりに小学生が参画する意義や、地域の創生に向け、様々な立場の人が参画する意義について話していただく。

行政の立場としては、大田区まちづくり推進部都市開発課に協力を依頼する。ビデオメッセージとして、次の項目について話していただく。

- ① 商店街の魅力を小学生が発信した意義
- ② 地域の商店街が活性化することの地域への影響
- ③ 行政から見た商店街が活性化する重要性
- ④ 小学生に期待すること

行政の立場の方からの話を聞くことで、自分たちの取り組みによって、地域社会がよりよくなることをさらに感じられるようにする。自己有用感を味わうことで、「未来でも様々な課題に気付き、自分事としてとらえ、主体的に参画して解決しようとする態度の基礎」が育てられるようにする。

### (4) 企画を検討する前の「視点を整理する時間」の設定 (ひ・か・り①) (協議の視点)

「地域の人を考えを生かし、地域の人に喜ばれる企画を話し合って立て、実現する力」を高めるためには、友達や商店街の人、地域の人との話し合いが深まる必要がある。様々な立場の人との話し合いが深まるように、コンセプトの段階で視点を整理する時間を設ける。「地域の人に伝えるポスター」、「地域のこどもが行きたくなるイベント」の順で、それぞれの視点について話し合う(★資料参照)。4年生の頃に、企画のアイデアを話し合う前に視点を整理する経験をしており、素地はある。

視点を整理してできあがった構造図は、後で「未来シート」としてまとめる。単元を貫き、様々な立場の人と「未来シート」の中の視点を指し示しながら対話することで、話し合いが広がり、深まりやすくなる。

児童が視点を明確にもつことで、【コンセプトの段階】では、商店街の人や生活する様々な人の立場に立ち、多角的な視点から企画を検討できるようになる。

未来シートは、【デザインの段階】では、よりよい企画になっているか分析する思考ツール、対話を促進するツールとして効果を発揮する。未来シートの活用が、クリエイションに向けて新たな課題や改善点を発見するための手だてとなる。

【クリエイションの段階】では、ポスターやイベントの企画案を作成する場面で、視点をもとにすることで、目標からぶれずにまとめる手だてとなる。PRウィークの実施後には、商店街の方から実施の結果と感想をいただくときに、自分たちが力を入れた視点に着目しやすくなる。実社会の人たちの反応について、的確なフィードバックを得やすくなる。

活用場面	未来シートの効果
ポスターやイベントの話し合い (チームごと)	・幅広い視点からアイデアを発想し、詳しく分析・検討できる。生活者側の視点を具体的に意識しやすくなる。【発想の幅】 ・どの視点について話し合っているかが分かり、目的から逸れずに話し合いが深まる。【話し合いの焦点化】
取材と提案	・シートを見せながら取材することで、商店街の方の希望について、短時間で幅広い視点から、正確に把握できる。【的確な把握】
フィードバック	・ポスターやイベントの内容がよいかどうか、素早く、様々な視点からフィードバックを商店街側と生活者側からもらえる。【幅広い視点】

## 6 単元指導計画（20時間）

時	○主な学習活動 ◆創造的な資質・能力を育成するための手だて	評価規準 (方法)
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;">お店のポスターグループ</div> <div style="background-color: #e1eef6; padding: 5px;">商店街のイベントグループ</div> </div>	
1 ~10/3	<p>○商店街の方々からのビデオメッセージを見る。</p> <p>◆授業パートナーの方から商店街の魅力を地域の方に伝え、活性化を図るための広報物の作成についての依頼を受ける。授業パートナーの講話を通して、商店街の取り組んでいることや課題として感じていることを捉える。</p> <p>○単元を貫く問いをつかむ。</p> <p><b>商店街がもっとにぎわうように、PRするウィークを開催しよう</b></p> <p>○依頼に対して、自分たちのできることを話し合い、学習計画を立てる。</p>	主① (振り返りシート)
2 10/6	<p>○商店街を実際に歩き、現状を知り、自分の役割において、どんなことができるか考える。洗足池駅側と長原駅側の商店街を両方歩く。</p> <p>◆マップやWSを活用し、自分たちの担当する商店街やお店についてどのような視点で見るとかを明確にして見学に取り組む。</p>	
3	<p>○見学の内容をもとに、自分の役割を決める。</p> <p>※お店のポスターをつくるグループか、商店街のイベントをつくるグループに所属する。</p>	思① (観察・WS)
4 本時 1組 10/15 2組 10/9 3組 10/16 4組 10/14	<p>○ポスターを作成していく上で、「地域の人の心を惹きつける」ためにどんな工夫があるか KJ 法的手法でまとめる。</p> <p>◆心を惹きつけるポスターにはどんな要素が必要かについて、様々なポスターを持ち寄って考える。</p> <p>○自分たちが担当するお店についてのポスターを考え、どんな視点を大切にしていかにしていかについて思考する。</p> <p>◆自分たちでホワイトボードに付箋や文字でまとめる中で、視点を考え、それを用いてインタビューすることの良さに気付く。</p>	知① (観察・KJ法・WS)
5	<p>○商店街のイベントを作成していく上で、「地域の人の心を惹きつける」ためにどんな工夫があるか KJ 法的手法でまとめる。</p>	

		<p>○自分たちの担当するイベントを振り返り、どんな視点を大切にしていくなかについて思考する。</p> <p>◆視点を考え、それをういてインタビューすることの良さに気付けるよう、自分たちでホワイトボードに付箋や文字でまとめる。</p>		
	<p>6 10/17 (全クラス)</p>	<p>○オンラインで、デザイナーの方の話を聞き、ポスター作成の目的やその視点、更には企画の視点について掴む。</p> <p>○自分たちが作成した「ポスターづくり」と「企画づくり」の視点について振り返り、改善する。</p>		
デザイン	<p>7 8 9 10</p>	<p>○各チーム、各お店のポスター作成に向けて自分たちにできることを考える。</p> <p>○チームごとに第6時までに考えた視点を基に、ポスターに取り入れる視点を決める。</p> <p>○チームごとに、決めた視点を基に、ポスターのラフ案を作成する。</p> <p>○クラス・学年内で企画案を見せ合い、修正する。</p> <p>◆チームごとに作成したブレインストーミング等に聞き手がICTを活用しながら付箋を貼る。それを踏まえて、自分たちの企画を修正する。</p> <p>○第11時のインタビューを行うための準備をする。</p>	<p>○各チーム、商店街の活性化に向けて自分たちにできるイベントを考える。</p> <p>○チームごとに商店街の活性化のために自分たちに何ができるか考え、付箋を活用したブレインストーミングやKJ法的手法でまとめる。</p> <p>○クラス・学年内で企画案を見せ合い、修正する。</p> <p>◆チームごとに作成したブレインストーミング等に聞き手がICTを活用しながら付箋を貼る。それを踏まえて、自分たちの企画を修正する。</p> <p>○第11時のインタビューを行うための準備をする。</p>	<p>思② (ポスターラフ案・企画案・WS)</p>
	<p>11 1・2組 10/21 3・4組 10/22</p>	<p>○協力店舗に行き、そのお店の魅力を知り、お店側がポスターに入れてほしい情報を集める。</p> <p>○自分たちが第6時までに考えた「視点」の表とポスターのラフ案を活用し、イメージの共有を図る。</p> <p>◆相手との合意形成や意見の深まり、更には新たなアイデアが生み出されることに気付けるよう、自分たちで作成した視点を基にインタビューを行う。</p>	<p>○商店街の理事会長のもとに行き、商店街のよさや店舗の魅力や願いについて知り、情報を集める。</p> <p>○自分たちが第6時までに考えた「視点」の表を活用し、企画のイメージを共有する。</p> <p>◆相手との合意形成や意見の深まり、更には新たなアイデアが生み出されることに気付けるよう、自分たちで作成した視点を基にインタビューを行う。</p>	<p>主② (インタビューの様子)</p>
	<p>12 13</p>	<p>○各チームで課題を解決するための企画を再検討する。</p> <p>◆インタビューで得た情報をこれまでと異なる色の付箋等でまとめ、それをもとに修正案を考える。</p>	<p>○各チームで課題を解決するための企画を再検討する。</p> <p>◆インタビューで得た情報をこれまでと異なる色の付箋等でまとめ、それをもとに修正案を考える。</p>	<p>思③ (ポスターラフ案・企画案)</p>

		○他のチームと情報を共有しながら、修正や調整を行う。 ◆他のチームと情報交換を行う中で、自分たちの企画を多面的に見直す機会を設ける。	○他のチームと情報を共有しながら、修正や調整を行う。 ◆他のチームと情報交換を行う中で、自分たちの企画を多面的に見直す機会を設ける。	案・WS)
	14 1・2組 11/11 3・4組 11/12	○協力店舗に行き、自分たちのポスターに対してフィードバックをもらう。 ◆相手との合意形成や意見の深まり、更には新たなアイデアが生み出されることに気付けるよう、自分たちで作成した視点を基にインタビューを行う。	○商店街の理事長のもとに行き、自分たちの考えた企画に対してフィードバックをもらう。 ◆相手との合意形成や意見の深まり、更には新たなアイデアが生み出されることに気付けるよう、自分たちで作成した視点を基にインタビューを行う。	主② (インタビューの様子)
	15	○各チームで課題を解決するための企画を再検討し、他のチームと情報を共有する。 ◆インタビューで得た情報をこれまでと異なる色の付箋等でまとめ、それをもとに修正案を考える。	○各チームで課題を解決するための企画を再検討し、他のチームと情報を共有する。 ◆インタビューで得た情報をこれまでと異なる色の付箋等でまとめ、それをもとに修正案を考える。	知② (ポスターラフ案・企画案・WS)
クリエイション	16 17 18	○各チーム、商店街の活性化に向けたプロジェクトをすすめる。 クラス内で制作物を見せ合い、感想を伝え合う。 ◆視点を基に行ったインタビュー内容を想起し、ポスターやイベントを作成する。		思③ (制作物・WS)
	※	<b>商店街PRウィークの実施</b>		
	※	お店の方や商店街の会長からのフィードバックを、フォームで回答いただく。 フォームは時間があれば、企画チームなどが作成する。		
	19	○区役所の方などからフィードバックをいただく。		知③ (発言・WS)
	20	○お店の方からのフィードバックを読み、自分たちの成果と改善点を確認する。	○商店街の会長からのフィードバックを読み、自分たちの成果と改善点を確認する。	主③ (WS)
	○単元のまとめと振り返りを行う。			

## 7 本時の指導 (4/20)

### (1) 本時の目標

視点の整理について話し合う活動を通して、地域の方の話をもとに、情報を整理・分析し、広報物のコンセプトを設定することができる。

### (2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ★評価 (評価方法) ◆創造的な資質・能力を育成するための手だて
導入	○4年生のときに、高齢者が喜ぶデザインについて視点を整理した経験話し合い、想起する。 ○本時のめあてを確かめる。	◇4年生の時の経験を想起しやすいように、昨年度の視点を整理した図を提示する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">地域の人に伝わるポスターとはどのようなものだろうか</div> ○本時の活動の流れと到達目標を確認する。 【本時の終了状態】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">クラス全体で考えた視点を参考に、チームごとにポスターに取り入れる視点を仮決定した状態</div>	◇事前に、イベントグループの児童は、分かれて所属する商店のチームを決めておく。
展開	○商店チームごとに、各自が収集してきた参考になるポスター(チラシを含む)を見合いながら、ポスターの工夫しているところ(視点)を話し合う。視点を書いた付箋を大型のホワイトボードに貼り、話す。 ・このポスターがよかった。工夫は3つあって、一つ目は…。 ○考えを広げるために、他のチームのホワイトボードを見て回る。 ・私たちが気付かなかった視点があった。 ○今までの活動で見付けたすべての視点について、クラス全体で黒板にJ法的手法を使って整理する。 ・目立つところがいい。 ・写真があるといい。なぜかという…。 ・目立つ色 ・お店の歴史 ○商店チームごとに、クラス全体で統合した視点の構造図をもとに、担当する店にあった視点の構造図をホワイトボードに書く。	◇家庭学習や朝学習の時間に、参考になるポスターを探し、ポスターで工夫されていると思ったこと(視点)をワークシートとブロック付箋に3~8個、書き出させておく。 ◇早く終わったチームは、KJ法的手法を使って、付箋を整理する。 ◆話し合っって企画を考える視点を整理する時間を設ける。 ★視点の整理について話し合う活動を通して、地域の方の話を基に、情報を整理・分析し、広報物のコンセプトを設定することができる。(観察・ホワイトボード) ◇早く終わったチームは、ポスターのレイアウト案をかいて待つ。 ◇視点は、取材するときの質問に役立つ。
終末	○本時についてまとめ、振り返る。 ・伝わるポスターは、デザインや内容、書き方が工夫されている。 ・お店の歴史について詳しく聞いてみたい。	◇本時の終了状態の目標が達成できたことや、めあてについての考え、学習感想などを発表する機会を設ける。

## 「おおたの未来づくり」と提案授業のかかわりについて

### 1 おおたの未来づくりの目標

未来を創造するための見方・考え方を働かせ、実社会で活躍する様々な人などと連携して、「探究」と「創造」を往還しながら発展していく学習過程において、よりよい未来をつくるための創造的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) ものづくりや地域の創生に必要な知識及び技能を身に付けるようにする。
- (2) 試行錯誤して、地域の社会や人々の「Well-being」につながるものや取組を発信することができるようにする。
- (3) 実社会で活躍する様々な人などとの関わりを大切にするとともに、自分や他者のよさを生かして主体的に取り組み、よりよい未来を創造しようとする態度を養う。

### 2 創造的な資質・能力とその素地との関連性

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「内容」に関する知識・技能 対象とする分野によって変化する 企業・団体等の活動 内容にかかわる社会情勢 プログラミング技術 等</li> <li>・「方法」に関する知識・技能 対象を限定しない汎用的な技能 対話 情報収集 思考ツールの活用 プレゼンテーション作成 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Well-being」の視点をもった 検討</li> <li>・コンセプト 相手意識をもった、情報の整理・分析</li> <li>・デザイン 実現可能性を含めた検討・企画・計画作成 等</li> <li>必要に応じた役割分担・支援 要請・進行管理 等</li> <li>・クリエイション ニーズに応じた修正・改善 効果を考えた工夫 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会の人とのかかわりを大切にする態度</li> <li>・学び合う友達と協力することでより良いものを生み出そうとする態度</li> <li>・学習課題解決に向けて粘り強く取り組む態度</li> <li>・自己評価や調整・修正等を行いながら進んで活動する態度</li> </ul>



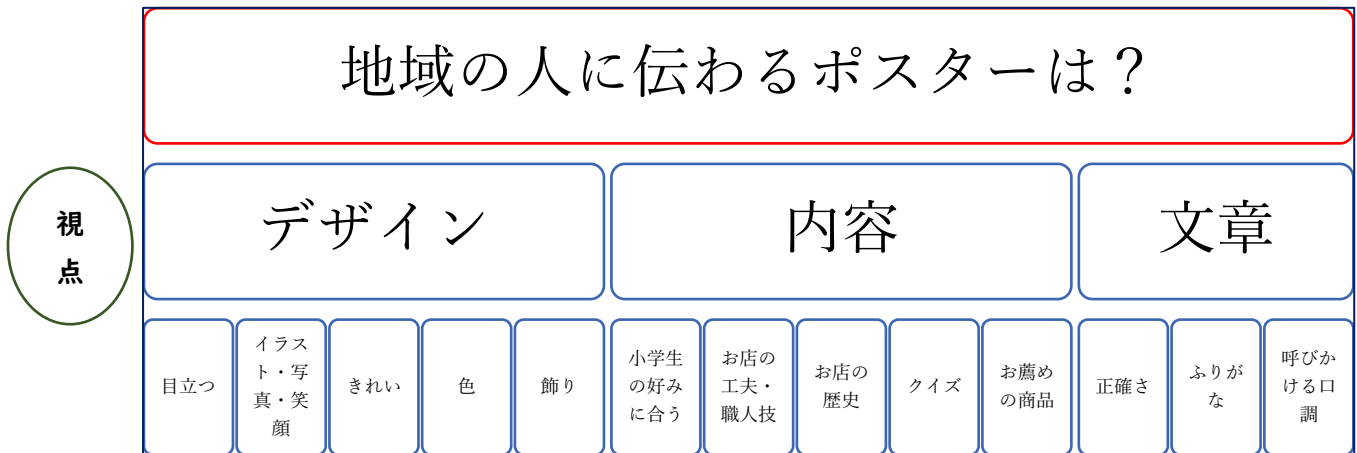
<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報を収集するための知識及び技能</li> <li>○情報を整理し考えることにかかわる知識及び技能</li> <li>○相手に分かりやすく伝えるための知識及び技能</li> <li>○各教科の特性にかかわる知識技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題を発見する力</li> <li>○既習事項や収集した情報、多様な考えを整理して問題の解決策を考える力</li> <li>○問題を発見し、解決策を考え、実行する等を繰り返して、問題解決を図る力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対話を大切にし、すすんで情報を収集しようとする態度</li> <li>○自分や他者のよさを生かしながら主体的に取り組もうとする態度</li> <li>○学習を振り返って問題発見・解決につなげていこうとする態度</li> </ul>
創造的な資質・能力の素地となる力		

### 3 創造的な資質・能力の素地につながる取り組み

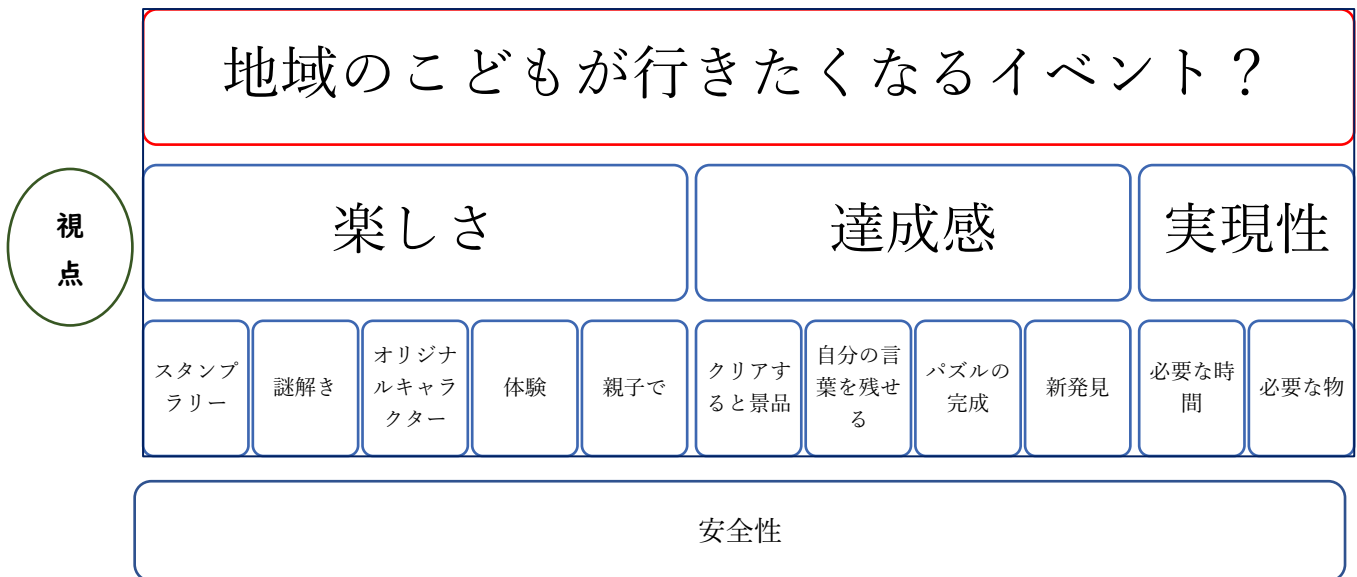
<p><b>豊かな体験活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○地域等を中心とした学校外での活動を十分に経験させる</li><li>○教員以外の多様な大人と触れ合う機会を経験させる</li></ul> <p>→社会に対する興味・関心や肯定的な感情・感覚を養う</p>
<p><b>自己肯定感・有用感の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○自分には力があり、努力することで困難を解決できるという確信をもたせる</li></ul> <p>→主体性に活動する姿勢や挑戦する意欲を養う</p>
<p><b>認め合い・協働できる学習集団作り</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○児童がお互いに関心をもち、かかわりあう場</li><li>○挑戦や疑問が評価される場      ○話し合いによる合意形成の機会</li></ul> <p>→児童が自分の力を十分に発揮するために安心感のある集団を作る</p>

資料

視点の整理のイメージ図「未来シート(ポスター版)」



視点の整理のイメージ図「未来シート(イベント企画版)」



※こども…ここでは小学生を中心に幼児から中高生までを指す。

4年生で学んだ視点の整理のイメージ図

